

情 報 公 開 文 書

項 目	内 容
研究の名称	当病院脳神経外科病棟における CZ-Hi 投与で下痢につながる要因の明確化
研究の目的 及び意義	<p>脳神経外科病棟では、意識障害や嚥下障害のため経口摂取が困難な患者さんが多く、経腸栄養を必要としていますが、経腸栄養開始後に下痢が生じてしまう例が多くみられています。</p> <p>日本静脈経腸栄養学会の全国栄養療法サーベイ委員会のデータから、下痢は経腸栄養を管理している症例において最も多い消化器系合併症であると述べられています。また、経腸栄養管理に伴う合併症の調査において、2001年の実施では下痢が80.8%、2014年では81.5%と年数を重ねても下痢が最も多い合併症であると示されています。</p> <p>現在、私達の病棟では、糖尿病や腎機能障害がある患者さんを除いて、経腸栄養開始時に CZ-Hi を第一選択としている事が多いですが、CZ-Hi 開始後は下痢が多く見受けられている状況です。</p> <p>現在、経腸栄養開始時は、段階を踏んで注入量を増やしたり、注入開始時は消化態栄養剤を使用したりと下痢の予防や対策はしていますが、下痢発生後から介入する事が多く、電解質のバランスを崩したり、スキントラブルの発生要因にもなっています。</p> <p>そのため、下痢の要因として挙げられている数々の問題に CZ-Hi を投与している患者さんを当てはめていき、CZ-Hi 投与で下痢に繋がる要因を明確にすることを目的としています。</p>
研究の方法 及び期間	<p>【研究方法】</p> <p>対象患者さんの既存の診療録のデータをもとに、下痢につながる要因を抽出します</p> <p>【期間】：倫理審査委員会承認後～ 2021年 3月 31日</p>
研究対象者の 選定方針	<p>*選定基準</p> <p>①東6入院患者さん(2019年5月1日～2020年4月30日)</p> <p>②主疾患が脳神経疾患の患者さん</p> <p>③CZ-Hi 投与している患者さん</p> <p>*除外基準*</p> <p>①入院前より経腸栄養をしていた患者</p> <p>②CZ-Hi 以外の栄養剤を使用している患者</p>
研究に用いる資料・情報の種類	年齢、体重・身長 (BMI)、既往歴、経腸栄養投与量・速度、水分投与量・速度、食品アレルギー、採血データ、使用薬剤、

本研究に関するご質問、ご相談等がありましたら、下記の連絡先までお問合せください。

ご希望があれば他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができますので、下記連絡先までお申し出ください。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象と致しませんので、下記連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。

問い合わせ先及び研究への利用を希望しない場合の連絡先
 研究責任者： 東6看護師 三月萌子
 問い合わせ先:045-851-2621 (病院代表)
 時間:平日9時～17時